

大子町廃校再生プロジェクト～in 初原ぼっちの学校～

教育・研究 ボランティア
課外活動 地域交流

〔代表者〕教育学部 3年 村上 慶一

連携先

大子町教育委員会
大子町役場
初原ぼっちの学校周辺の地域の方々

参加者

戸田 賢吾 (教育学部 学校教育教員養成課程 技術選修 4年)
大曾根 和也 (教育学部 学校教育教員養成課程 数学選修 3年)
小林 真奈美 ()
佐瀬 光祐 ()
篠塚 友美 ()
古木 香里 ()
村上 慶一 ()
横島 あかね ()
渡辺 誠 ()
手塚 奈桜海 (教育学部 養護教諭養成課程 3年)
元越 朝香 (教育学部 学校教育教員養成課程 家庭科選修 3年)
安藤 康平 (人文学部 社会科学科 3年)
高橋 遼 ()
関 奈那子 (人文学部 人文コミュニケーション学科 3年)
嶋崎 惇子 ()
槌谷 祐未 ()
池上 貴之 (教育学部 学校教育教員養成課程 数学選修 2年)
大川 拓哉 ()

菅澤 和希 ()
佐藤 静香 (人文学部 社会科学科 2年)
大石 浩二 (理学部 理学科数学 情報数理コース 2年)
宮内 博史 ()
瀬谷 啓弥 (教育学部 学校教育教員養成課程 英語選修 1年)
八巻 可菜子 ()
中谷 さくら (教育学部 学校教育教員養成課程 1年)
市川 紘匡 (教育学部 学校教育教員養成課程 数学選修 1年)
大森 隆史 ()
長谷川 裕紀 ()
馬場 源 ()
佐藤 亜美 (教育学部 学校教育教員養成課程 社会科選修 1年)
佐藤 寿子 (教育学部 学校教育教員養成課程 国語選修 1年)
中村 環生 (人文学部 社会科学科 1年)

プロジェクトの実施概要

(1) プロジェクト発足までの経緯

学生の「子どもを集めてキャンプがしたい!」という思いからチームが発足。大子町の廃校「初原ぼっちの学校」(以後ぼっちの学校と省略)で、平成19,20年度と二度にわたり子どもたちを募集して、キャンプを行った。その際、計画がたつまで支援して下さった学校関係者や、地域の方々、大

子町役場の方と関わる中で、感謝を感じるとともにその地域の人々が好きになっ

た。そこで、好評であったキャンプに加え、20年度からは廃校再生というテーマをプロジェクトに組み込んだ。これを廃校再生プロジェクトと題し、「ぼっちの学校」の利便性を高め、初原地区における公民館のような「交流の拠点」にしたいと考えたプロジェクトである。今年度は成果のでつつあるこの廃校再生プロジェクトにも、よりいっそう取り組んで行きたい。

(2) プロジェクトの内容・計画

大子町にある「ぼっちの学校」の再生を試みるプロジェクトと、子どもを集めてキャンプを行う計画の二つが主な内容ある。

①「廃校再生プロジェクト

- ・「ぼっちの週末」と題し、月に一度「ぼっちの学校」を訪問し、地域の方々と連携しながら、学校の利便性を高める為の話し合いや作業を行う。
- ・「ぼっちの週末」で大子町初原地区の人たちにとってのこの学校を、より身近なものにするためにイベント等を行うことを計画している。また、学校の利便性を高めるための修繕が必要な箇所がある場合、地域の専門の方と協力しながら修繕を行う。
- ・学校の雰囲気をよくするために、花壇に花を植えたり、試作的に農作物を植えている。

②8月に子どもたちを募集して、ぼっちの学校でキャンプを行う

昨年と同様、2泊3日のキャンプを計画段階から、募集、運営までを学生が行

う。募集する子どもたちは、水戸・大子の子どもたちである。キャンプの内容としては、大自然の中で遊んだり、友達と仲良くできるようなものを計画している。計画するにあたって、地域の人との交流も視野に入りたい。

(3) 連携の方法

- ・月に一度の「ぼっちの週末」で、地域の人たちと一緒に掃除や修繕等を行う。
- ・キャンプの企画内容は、地域の方と何度か打ち合わせを行い、主に安全面などから実施可能かどうか等のアドバイスをいただき、計画を練っていく。打ち合わせを行うものの具体例として、キャンプファイヤーや流しそうめんなどといったものがある。
- ・当日の地域の人たちの関わり方としては、学校周辺の家を訪問したり、野菜を提供していただいたり、昔ながらの道具を借りたり、地域にまつわる話をしていただいたりするなどというものである。まだ計画段階であるが、地域の方を企画に参加してもらうこともしてみたいと考えている。

(4) 期待される成果

このプロジェクトを通して以下のような成果を考えている。

- ・このプロジェクトにより学校が、地域の公民館のようなものとして使われるようになり、地域の活性化につながる。
- ・いつもと違う環境で、初めて出会う「人」や初めて見るような「もの」と触れ合う中で、子どもたちの感性をより豊かにし、広い視野を育てる足がかりとな

る。

- ・地域の年輩の方から昔話や、地域の伝統、おばあちゃんの知恵袋といったような話を聞ける。それにより、今の現代社会の状況とつきつめて、地域の問題点やこれからの課題、良い所などをより明確に把握できる。

プロジェクトの成果報告

本プロジェクトの実施内容として、今年以下に二つの活動を中心に行った。

1) さまーすくーる in 大子の開催

「さまーすくーる in 大子」と題し、初原ぼっちの学校にて水戸市・大子町内の小学3年生から中学2年生を対象に8月20日～22日に2泊3日のキャンプを開催した。キャンプの開催に際して、大子町内の小中学校や町役場の方々、また、水戸市内のスーパーマーケットでは募集要項の掲示など多くの方々のご協力・ご支援をいただいた。

「さまーすくーる in 大子」では、子どもたちが豊かな自然の中で様々な体験活動を通し、自主性・協調性を育むこと、自立へのきっかけづくりを目的としている。今回は「挑戦」をねらいとし、さまざまな活動を通し挑戦することで自信や積極性を身に付け、また、仲間と協力することの大切さを学ぶことを目的とした。実際の子どもの様子は、最初は知らない人ばかりの環境に戸惑いを感じているようであったが、3日間生活する中で自主的に、また、協力して食事の準備や掃除などを行っている子どもたちが多く見られた。

事後アンケートでは、子どもたちから「楽しかった」「また参加したい」といった声が

多く、また、保護者の方々からは「すすんで家事を手伝うようになった」「キャンプで作った食事を作ってくれた」「自分のできることは自分でするようになった」など、小さな変化ではあるが子どもたちの成長した姿を喜ぶ声が寄せられている。

今回は前回キャンプに参加した、大子町中学3年生がボランティアスタッフとして参加し、協力をしてくれた。初めての試みではあったが、次回以降も積極的にさまーすくーる OB・OG と協力していきたい。

2) ぼっちの週末の実施

ぼっちの週末とは、月に一度学生がぼっちの学校に訪問し、学校の修繕作業や、地域の方々との交流・話し合いを目的としたものである。

実際に、花壇や畑づくりを行ったり、地域の清掃に参加するなど交流も行った。その中で、地域の方々が「大子町についてどのように考えているか、子どもたちをよんでキャンプを行うことについてどんな考えを持っているか、また、教育観についてなど」様々なお話をした。このような活動により、よりよい環境や、地域の方々とのつながりも持つことができた。このプロジェクトを推進するにあたって、地域の方々の協力・理解は必要不可欠のものであり、月に一度の訪問ではあったが、大子町のことや地域の方々の考えを知る機会となった。